

ホウレンソウ

新品種「フィーリング 125」の特性と利用

雪印種苗㈱ 北海道研究農場

大橋 真信

1 はじめに

ホウレンソウは緑黄色野菜の代表として様々な調理に用いられ、周年を通して需要の大きい野菜の一つです。軟弱野菜であるホウレンソウは海外からの輸入が困難であり、年間に消費される青果物のほぼ全量を国内の生産で賅っています。したがって、ほぼ国内全域において栽培・出荷が行われており、作付面積・出荷量ともに安定した作物です(図1)。近年は品種の改良、雨よけハウスの導入などにより、夏期の作付けも増加してきましたが、ホウレンソウの特性上、最も作りやすい時期である秋～春にかけてが作付けの大半を占め、地域・作型に応じて多くの品種が用いられています。現在、産地においては秋、早春の重要病害であるべと病(レース1～4)に抵抗性を持つ品種の導入が重要であり、それに加えて多収・高品質・収穫調整作業がしやすいことなどが求められます。

当社では秋～早春播き用として、べと病抵抗性品種『アールフォー』、『ニュースターII』、『パルタン』を販売・ご利用頂いておりますが、このたび、これらの品種よりもじっくり生育して収穫期

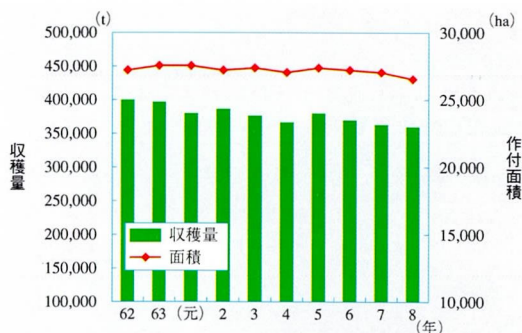


図1 全国年次別ホウレンソウ作付面積・収穫量の推移



写真1 露地栽培風景 大葉でそろい良好 (福岡県大刀洗町 10月播種)

の幅が長く、栽培容易、品質良好な新品種『フィーリング 125』(試作系統名 S P 125) を発表致しますので、その特性と栽培のポイントについてご紹介いたします。

2 『フィーリング 125』の特性 (表1. 写真1～5)

初秋播きなどのやや温暖な時期にも、じっくり生育して葉柄が伸びにくく、葉色が濃く外観が優れ、べと病レース1～4に抵抗性を持つ初秋～早春播き剣葉品種です。

①生育

アールフォーよりも生育が遅く収穫適期の幅が長い品種です。低温伸長性はアールフォーよりも劣りますが、じっくりと生育して株張りがよい多収型です。また、根張りが良好で、過乾・過湿などの条件下でもスムーズに生育します。

表1 品種比較試験

千葉研究農場（露地／トンネル栽培）

品種名	収穫日 月/日	草姿 9~1	葉色 9~1	葉形 9~1	葉面 9~1	株張り 9~1	葉長 cm	葉身長 cm	葉幅 cm	葉数	葉身比 %	一株重 g	抽苔率 %
平成9年1月23日播種（2号換気トンネル）													
フィーリング125	4/3	7.0	7.0	5.0	5.5	7.0	28.1	12.8	9.8	15.8	46	31.2	0
アールフォー	4/3	6.0	7.0	5.0	5.5	7.0	30.5	12.1	9.5	16.4	40	37.8	0
バルタン	4/3	6.5	6.5	5.0	6.0	7.0	29.5	13.6	9.5	14.6	46	31.6	0
他社品種P	4/3	6.0	7.0	5.0	6.0	7.0	28.8	12.5	10.0	15.8	43	35.5	23.0
他社品種L	4/3	6.0	7.0	5.0	6.0	7.0	26.9	10.9	9.1	16.8	41	34.0	24.2
平成9年3月27日播種（露地）													
フィーリング125	5/14	7.0	7.0	5.0	6.0	7.0	28.4	15.3	10.3	18.2	54	32.8	0
バルタン	5/13	7.0	5.0	5.0	6.0	6.5	35.2	15.8	10.5	17.2	45	36.7	0
ニュースターII	5/13	6.0	6.0	5.0	5.5	7.0	33.3	17.2	11.5	16.6	52	37.2	14.3
他社品種L	5/14	7.0	5.0	5.0	6.0	7.0	30.5	13.3	10.2	15.4	44	34.7	54.5
平成9年9月24日播種（露地）													
フィーリング125	11/4	7.0	7.0	5.0	7.0	7.0	29.7	14.8	10.9	17.4	50	31.6	0
バルタン	10/27	8.0	6.0	5.0	7.0	7.0	31.7	15.9	10.5	14.4	50	24.4	0
他社品種P	11/4	7.0	7.5	5.0	7.0	7.0	28.7	14.2	10.9	17.6	49	30.7	0
平成9年11月20日播種（2号換気トンネル）													
フィーリング125	2/25	6.5	7.0	5.0	5.5	7.0	29.4	13.5	9.9	15.2	46	35.2	0
アールフォー	2/17	6.5	7.0	5.0	5.5	6.0	29.1	12.1	8.7	13.0	42	30.5	0
バルタン	2/17	6.5	6.5	5.0	6.0	7.0	29.5	14.0	9.5	12.8	47	33.2	0
他社品種P	2/25	6.0	7.0	5.0	6.0	7.0	29.9	12.6	9.3	14.0	42	38.6	0
他社品種L	2/25	6.0	7.0	5.0	6.0	7.0	30.6	13.2	9.6	15.8	43	39.8	0

北海道研究農場（雨よけハウス栽培）

品種名	収穫日 月/日	草姿 9~1	葉色 9~1	葉形 9~1	葉面 9~1	株張り 9~1	葉長 cm	葉身長 cm	葉幅 cm	葉数	葉身比 %	一株重 g	抽苔率 %
平成10年3月23日播種													
フィーリング125	5/3	6.0	5.0	7.0	6.0	7.0	25.5	12.3	7.5	12.4	48	18.0	0
ニュースターII	4/28	5.0	4.0	6.0	6.0	6.0	25.2	12.2	6.8	9.6	48	14.6	21.9
他社品種P	5/3	7.0	4.0	8.0	6.0	7.0	26.1	11.7	7.4	12.2	45	17.7	1.6
他社品種L	5/3	7.0	4.0	7.0	8.0	6.0	25.8	11.9	8.1	15.8	46	17.9	30.2
平成10年9月14日播種													
フィーリング125	10/26	7.0	7.0	7.0	6.0	6.0	28.8	14.2	9.2	7.9	49	16.1	0
アールフォー	10/20	6.5	6.0	6.5	6.5	6.0	30.1	13.6	8.2	7.7	45	15.2	0
ニュースターII	10/20	6.0	5.5	7.0	6.0	6.0	29.6	14.6	8.3	7.9	49	16.5	0
他社品種P	10/26	7.0	6.5	7.0	6.0	5.0	28.6	13.5	8.7	9.6	47	16.0	0
他社品種L	10/26	7.0	5.5	7.0	7.0	5.5	28.8	13.5	8.9	9.1	47	17.1	0

草姿：9（立性）-1（半立性），葉色：9（極濃緑）-1（黄緑色），葉形：9（剣葉）-1（丸葉），葉面：9（極縮）-1（極縮），株張り：9（極良）-1（極不良）

②葉形

葉先が尖り1~2段の欠刻が入る、はっきりとした剣葉種です。

③葉色

極濃緑色で照りがあり、特に葉色が淡くなりやすい温暖期にも外観が良好です。

④葉面

低温期にはやや縮みがありますが、温暖期には滑らかで品質良好です。

⑤収穫・結束

立性~半立性で外葉が垂れにくく、葉柄にしなりがあり収穫や結束の作業が容易です。

⑥抽苔性

秋播き品種としては比較的遅く安定し、初秋~早春播きで抽苔の心配はほとんどありません。

⑦べと病抵抗性

べと病レース1~4に抵抗性を持つので、べと病の汚染地域でも安心して栽培することができます。

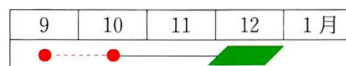
3 適作型と栽培の要点

(●----●：播種期 —：生育期
■：収穫期)

1) 一般地・暖地

①9月下旬~10月中旬播き（露地）

→11~12月収穫



やや温暖な時期の栽培となりますが、じっくりとした生育で葉柄が伸びにくく、収穫適期を長くとることができます。葉色が非常に濃く、葉に照りがあり外観も良好です。また、根張りが非常に強く、過乾・過湿などの土壌条件にも比較的強い特徴があります。

べと病の発生しやすい時期になりますが、レース1~4に抵抗性を持つので安心して栽培できます。



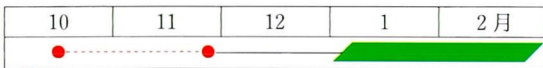
写真2 露地栽培で収穫された「フィーリング125」の草姿 濃緑で照りがあり株張りも優れる (福岡県大刀洗町 10月播種)



写真3 トンネル栽培
トンネル栽培で厳寒期にも滑面に仕上る (千葉研究農場 11月播種)

② 10月下旬～11月下旬播き (露地/被覆資材)

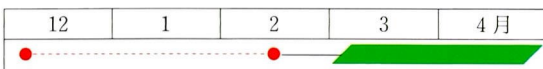
→ 1～2月収穫



厳寒期の生育になりますので、生育が遅くなります。特に気温が低くなる12月中旬～2月中旬にかけてはべたがけ、トンネルなど被覆資材の使用を基本とし、生育をスムーズに進め、かつ葉面の縮みが少ない良品を生産するように心がけてください。

③ 12～2月中旬播き (露地/被覆資材)

→ 3～4月収穫

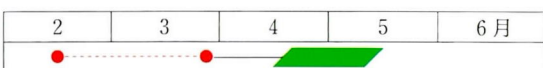


収穫期が高温期に向かう作型となりますが、じっくりとした生育ですので収穫期を長くとることができます。12～1月播種では播種時からべたがけやトンネルなどで被覆(2月中旬除去)すると、縮みの少ない良品を生産できます。

べと病の発生しやすい時期になりますが、レース1～4に抵抗性を持つので安心して栽培できます。

④ 2月下旬～3月下旬播き (露地)

→ 4～5月収穫



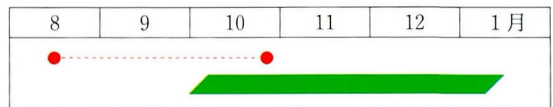
収穫期が温暖な時期になりますので、生育が早

まります。1回の播種量は少なめにし、収穫期を逃さないように注意してください。抽苔は比較的遅く安定していますが、むやみな遅播きは抽苔の危険があるので、播種期を厳守し、やや粗植栽培(100～110株/㎡程度)を心がけてください。

2) 北海道、府県冷涼地

① 8月下旬～10月播き (雨よけハウス)

→ 9月下旬～1月収穫



8月下旬～9月中旬播きでは、ハウスの側面を開放して冷気を取り入れ、株張りのよいハウレンソウを生産するようにします。葉色が出にくい時期ですが、濃緑で外観が優れます。9月下旬以降の播種は保温ぎみに管理し、生育が停滞しないようにします。

べと病の発生しやすい時期になりますが、レース1～4に抵抗性を持つので安心して栽培できます。

② 2～3月播き (雨よけハウス)

→ 4～5月収穫



収穫期が高温に向かいますのでハウスは早めに開放し、徒長しないように注意します。3月播きではやや粗植栽培(90～100株/㎡程度)とし、む



写真4 ハウス栽培
ハウス栽培でも濃緑、大葉で外観良好
(北海道研究農場 9月播種)



写真5 ハウス栽培で収穫された「フィーリング125」の
草姿 やや温暖な時期にも葉柄が伸びにくい
(岩手県遠野市 9月上旬播種)

地域	品種名	8	9	10	11	12	1	2	3	4月
一般地・暖地 (露地/被覆資材)	フィーリングIS									
	ニュースターII									
	バルタン									
	アールフォー									
府県冷涼地 (ハウス、雨よけハウス)	フィーリングIS									
	ニュースターII									
	バルタン									
	アールフォー									
北海道 (ハウス、雨よけハウス)	フィーリングIS									
	ニュースターII									
	バルタン									
	アールフォー									

図2 各品種の播種期(秋～春播き品種)

やみな遅播きは抽苔の危険があるので、播種期を厳守するようにしてください。

4 秋～春播き品種の使い分け(図2)

①アールフォー

低温伸長性に優れ秋～冬の低温期にもスムーズに生育し、葉色が濃く、肉厚で収量性、品質に優れます。低温期のハウス・トンネル栽培などで最も特性を発揮します。やや温暖期には葉柄が伸びやすいので播種期を厳守し、また、厳寒期の露地栽培などでは葉面の縮みが多くなりますので、必ずトンネル被覆を行うようにしてください。

②ニュースターII

やや温暖な時期でも葉柄が伸びにくく、アールフォーの前後播きに適します。低温期にはやや開張性となるので、この時期の播種は避けるようにし、また、春の遅播きは抽苔の原因となるので播

種期を厳守してください。また、生育はアールフォー同様に早いので、1回の播種面積が大きい場合は、フィーリング125の利用をお勧めします。

③バルタン

低温伸長性・耐寒性が極めて高く、厳寒期にも滑面で、葉面の縮みが少ないので厳寒期の露地栽培に最も適します。やや温暖な時期にも葉柄が伸びにくく、抽苔も比較的遅く安定するので、初秋・早春の播種も可能ですが、生育が早いため1回の播種量は少なめにし、粗植栽培を心がけてください。

5 むすび

秋～春播きにかけてのハウレンソウ栽培はべと病が発生しやすい時期であるため、抵抗性品種の導入が産地の課題となっており、それぞれの環境・作型に適した優良品種の開発が求められています。

フィーリング125の試作結果は良好で、温暖な時期にも、じっくり生育し収穫期間を長くとることができ、葉色が濃く外観が優れ、また、べと病抵抗性で作りやすいことなどが評価されています。フィーリング125の特性を生かし、良品を安定出荷されることを期待しております。